

2024年2月22日(木) 16:30~17:50

松川町農村観光交流センターみらい

令和5年度第5回 ゆうきの里を育てよう連絡協議会

・松川町農業振興会議 議事録

1. 開会・進行

田中課長

2. 挨拶

北沢町長

松下会長

3. 協議事項

(1) 経過報告・松川町農業基本計画の策定スケジュールについて 宮島説明
質問・意見 なし

(2) 地域計画策定に向けた行程 宮島説明

(3) 最適土地利用総合対策事業について(活性化計画の策定について) 宮島説明
質問・意見

松下会長 大沢地区については、現状、夢農隊というような形で地域で活動が始まっており、最新号のチラシの中でも地域にアンケートを取って、地域の実態を把握するなどの活動をやっている。地域によっては先行的に取り組んでいるようである。

(4) 温室効果ガス削減(見える化実証)について 宮島説明
質問・意見

松下会長 もうすでにシールを張る、そういう取組をしているのか。

事務局 この間判定していただければ、シールも久保田さんの方でつけて販売できる
というところである。

ゆうき給食とどけ隊 久保田会長 貼って、出しました。

松下会長 何か反応は。

ゆうき給食とどけ隊 久保田会長 まだ、手ごたえはない。

事務局 シールは、データをくれるので自分で印刷して使ってもよいし、少しくらいなら分けられるとのことだったので、送ってもらった。

松下会長 これからはこういった形が言われてくると思うので関心を持っていてもらいたい。

(5) 味覚調査・香り調査の結果について 宮島・原説明

質問・意見

松下会長 味くらべで上位の人のりんごを出したので、順位によつての数値的に高いとかの裏付けはあったのかなかったのか。

事務局 そこまでではない。松川町として何か特徴が出るかと思つたが、全員の方の酸味が強いといった結果が出たわけではないので、やはりそれぞれの農園の特徴が出ているかと思う。

松下会長 それは標高別とか何かそういう所まで分からないのか。

事務局 そこまで突き詰めるのは難しい。味だと、味覚センサーの方は 1 違うと自分で食べた時もすぐははっきり分かる。スーパーが 0 だったとしたら、酸味が 5 とか出ているところもあつたりとかするので色々である。

松下会長 例えば、りんごはそれぞれみんな松川町のお山の大将で我が家が一番という自覚を思っているわけで、そういう中で標高別とか何かそういう数値に現れるのがあつたらと思つてお聞きした。特にわからなかったか。

事務局 見る人が見たら、もしかしたら分かつたかもしれないが、私達では分析できなかった。

4. 報告事項

(1) 表彰について

(2) 各団体からの活動及び課題・提案事項などの報告

松川町農業委員会 北沢会長代理

今の 1 番は、地域計画にこれから本腰を入れていくということで、大沢南北地区の担当の農業員が非常に意欲的に頑張っておられる。先日も、現地調査で現地を見に行ったり、いろいろ活動をしたと報告をもらっている。とにかく、優良農地を地域のみinnで相談しながら守っていければいいと思つている。

JA みなみ信州農業協同組合 木下理事

2 月末で一回り集落懇談会が終了した。皆様の協力を得て、何とかなんとかやっけていける状態になつてゐる。特記事項としては、資材の高騰対策、電気料の高騰も含めて些少だが支援対策を農協で実施する。担い手がらみでは、ここ何年も農協で研修生をやつていて、今年も 2 名が新規に入り、きゅうりと柿の複合経営をやつてゐる。喬木とか南の方に入つてしまふが、継続してやるようになつてゐる。

人と自然にやさしい農業連絡会 米山代表

昨年の厳しい気象条件のなかで、中性種りんごが少なく全国で現在在庫 4 割少なく、青森でも昨年比 4 割減と聞いている。高温干ばつにより、収穫時期が遅くなつた。ワイ化栽培にも取組んでいるが、ふじの原木に近いものがやはり一番おいしい。私たちの取り組みを見ていただいていい産地作りをしていきたい。一年を通して検証していく中でいい技術が残っていくのではないかと思つている。

若武者 知久代表

今年度は学習会や 視察研修会及び秋と冬の販売体験会。若武者マルシェなどを行った。各イベントの方も実習生の方々が積極的に参加して、会員含めコミュニケーションもしっかり取れていっていると思う。来年度も新規会員者が入り、若い者でしっかりどんどんやっていけたらよいと思っている。まだ若輩者がたくさんいるので、皆様方々に協力いただきながら進めていければと思う。

松川町認定農業者連絡会 松尾会長

年間通して、農政懇談会、講演を計画していたが今年はまだ行っていない。年度末総会に合わせて行う。先進的農家への視察研修を行っており、今年は愛知県方面への農福連携について研修をさせてもらった。何でもあり学習会では、鳥害対策について、信州大学工学部小林教授よりお話を聞いた。今工学部の方でドローンを研究しており、ドローンが鳥害に対して効果があるということで期待している。農業委員会との意見交換会も実施させていただいた。認定農業者の会員 100 名程度いるが、出席していただける会員が毎回決まっていて、多くて 20 名出ていただければいいほう。なかなか呼びかけても出てもらえない現状があり、また新しく増やせればいいが、減少しているのが現状。

長野県法人協会 中平理事

長野県農業法人協会では県や国、JA に対して、その各産地の抱えている課題 やそういったものを提言していくような取り組みをしている。昨年 12 月に、県と JA 中央会との懇談会があり、各地域の抱えてる課題ということで意見提言を行ってきた。松本の豚の屠殺場の問題点を提言してきた。他、昨年火傷病という病気が中国で出て、今後花粉の輸入が止まるというような話になっている。松川の果樹の産地において花粉は重要になってくる。飯田下伊那はりんごづくりの南の限界地域であるが、遊休地が結構あり、町や色々な組織が努力していただいて遊休地の中でも優良農地は集約して担い手が決まったり、継続していく。しかし、松川の場合だと、新井や名子のように住宅地に畑がちょんちょんとあるような場合は、りんごや梨を作ったりするのは難しいと思う。そんな中で、すぐには無理だと思うが、花粉をここで生産して、次の年の花粉を確保する。更に言えば、その花粉を、他の産地に販売をするというのも面白いのではないかと思う。例えば、安曇野や北信の方、さらにいえば山形、青森。今北海道でもりんごを作っているので、ここが一番最初にりんごの花が咲くので、採れた花粉を他県、他産地で販売すればどうか。10a あたどれくらいの利益になるのか分からないが、県や何かと検証してもらえれば。町の方でもグリーンみらいまつかわができたので、遊休地利用の新しい方法として、こういった取り組みをすると、市田柿じゃないが、新しい産業が生まれる可能性もあるのではないかと思って県の方には提言をしている。今後も遊休地の活用という問題が出てくると思うが、花が受粉しないといい実はできないので、花粉不足は今後問題になってくる。県や JA は自分で花をとって花粉を取るというのを推奨している。ただ、あの時期温暖化の影響により一気に、梨もりんごもさくらんぼも花が咲

く中で、花粉を取ってやるのも非常に難しい。今後の遊休地の利用、新しい土地の利用の仕方、新しい産業の創出といった意味でも、花粉を作ってそれを他産地に販売をする新しい産業を生み出せる可能性もあるかと思い、そういった提言をしてきた。1月には学習会ということで、白馬村の方で勉強会をした。また法人になっても青年理事という形で所属することもできるので、ぜひ各若手団体の方は青年理事として出て色々勉強を。具体的にいけば、増野の竹村さんが青年理事として何年か行って、FPA 研修だとか色々経営の勉強をしてやる気が高まって、VinVie というシードルの工場を建てたっていう実績もある。また経営の勉強など、人の話を聞く機会もあるのでそういったものを参考にしていだければと思う。

長野県農業士協会 矢沢理事

農業士協会の年間の事業としては大きく分けて 3 つ。経営強化、視察研修、交流 事業の 3 つ。農業士の大きな役割として、農業経営強化に関するスキルを高めたい、地域を超えた同世代の仲間づくり、ネットワーク作りというテーマにやっている。また農業士協会下伊那支部の現実ということで、地域農業の若人のリーダーを作ったり、地域農業の活性化ということに下伊那地区として力を入れている。県の農業士協会としては阿部知事との意見交換会があった。もっと鳥獣に対する補助金が欲しい、女性の方にも農業の活動に手厚い支援をしていただきたいという話があった。また、有機栽培で有名な久松さんが未来塾へ講師として来ていただいた際に、下伊那支部の方へも翌日巡回してもらい、その繋がりでも、2 月に久松さんの所に視察研修に行った。茨城県の方は平らな土地で、農地も非常に集約されて大きな機械が導入されていた。松川町は今農地が点々として、なかなか集約されなっていないという現状ではあるが、何か松川町下伊那でも機械化できないかということも今話し合っ、取り入れることができたらぜひやってみたいという話をしている。

くだもの観光協会 代田副会長

観光協会ではバスの受け入れの減少について、このコロナ禍でお客さん来ないというのもあるが、それより大きなところは旅行会社がバスの数を減らしてしまっ、まずはバスを持ってないという問題が一番大きいと思っている。くだもの観光協会としては非常に大きな悩み。例えばさくらんぼに関しては、バスは土日中心でさくらんぼ狩りに来る。バスの台数が少ないので、平日の部門は学生さんの修学旅行とかに回して、土日のみさくらんぼ狩りというのがバス会社さんの状態。実績は、認定農業者の松尾会長がバスの受け入れをやっていたときは、ブルーベリーとか他のものも入っているが、一年間に一番多くて 400 台くらいあった。今年度はりんご・なしは部会組織になっており、バス受入組織で受け入れたのは 4 台だけ。一番多い時はさくらんぼに関しては 200 台くらい。実際は、協会では把握していない部分があったが全部で 500 台近くあったと思う。その頃は 1 ヶ月で約 3 万 3000 人とかさくらんぼ狩りに来ていただいたこともあるが、今は個人のお客さんとかは中止になっていて協会としては痛いなというところ。ただ、この部門は自分ではどんなにいいもの作ろうが、まだバスの方が受けれる体制ではないので、もう少し我慢をしな

いといけないかなと思いつながらやっている。ふるさと納税の返礼品のことだが、逆にこの部門は他産地の不作というのも手伝ったと思うが、今年度が非常に伸びて、りんご販売部会でははっきりはしてないが、部会長は言うには昨年の 3 倍から 4 倍のふるさと納税の返礼品を受けた。梨の販売部会は、2 倍から 3 倍と聞いている。この部門は全体に伸びたというようなところで、本当にみらいには大変お世話になって良かったと思っている。

有機農業研究会 山田会長

当会は 20 名の有志の会で組織していて、活動自体はもう 30 年以上続いている。名前に有機とあるが、果樹の場合はなかなか有機栽培というのは難しく、減農薬栽培に取り組んでいる。減農薬は国の認証の特別栽培農産物、あるいは県の認証の環境に優しい農産物の認証を取得している。国の特別栽培農産物は慣行栽培の 50% 以上農薬や化学肥料を減らしたものの、また県の方は同じく 50% 減らしたものと、30% 減らしたものとある。そういったものは、東京の方の学校給食に納めている。東京の方はやはり安心安全なものを求めていくということで、結構な量を扱っていただいている。またここ数年はふるさと納税の方にもお世話になっている。会の方も、高齢化が進んでおり、会の中にも後継者がいる家庭もあるが、会員として出てくるのはやはり私も含めて 70 歳以上が多いので、そういったことが今後の活動の問題点と思う。松川は果樹の町だが、有機栽培という方向ではなかなか歩みが進んでいかないという現実がある。近年の温暖化の中、褐斑病だとかの色々病害虫の被害が出ていて、なかなか、さあ減農薬をやしましょう。と言っても手を出せないという現実もあるが、やってみると失敗もあるがクリアできる部分もあるので、それを人に進めるということではないが、一步一步進めて着実なものにしていけたらと思っている。

農村女性ネットワークまつかわ 寺沢会長

ネットワークの方は先細りで、グループが 3 つあり、そのうちの 2 つが辞めることになった。残りは若いグループ 1 つだが、そのグループにもう 1 つ探してきて続けてはどうかと言っているがなかなか難しい状況。私たち農村の女性は比較的若い人たちは兼業の方もいるので、果樹をされてる方は高齢の人が多くなってきてしまって、会を運営するのが困難になっている。ネットワークの活動は、去年は梅漬けを行った。とても好評で、こういうことは楽しいという意見を頂いた。その他に企業や会社がどんなふうに運営しているか、どんな立ち上げをしてきたか、ここまで来たかなどを知りたくて天井舟下りをした。信州で新たに 4 月から始めたということで、その辺の経過をみんな聞いてきた。あとは女団連の事業と一緒に活動をした。この会の発足は全国組織だったようだが、長野県では令和 4 年で 50 周年を迎えたが、それを機に事業を辞めたということで、公的などころ県段階ではこの組織はなくなっている。後は各自治体で自由にやってくださいということで、あちこち消えていくような状況。去年の夏、長野市からバスで 20 名ほどこの組織の見学にきたが、悩みはみんな同じで、本当に消えていきそうというような感想だっ

た。若い人たちの組織もいくつかはあるので、そういった組織でまた何かの形でやってくれればと思う。そんな現状。

松下会長 今の話を聞いて寂しい感じがするので、行政の方でもテコ入れをお願いしたい。

農村生活マイスター 松下会長

松川のマイスター独自では特に活動はないが、松川の女団連の事業には参加している。松川町は北部地区になっているが、北部ではもう事業ができる予算もなくなってしまったので、飯伊のマイスターの方の活動に参加したりして松川独自の活動はない。24日の味まつりに協力参加する。

ゆうき給食とどけ隊 久保田会長

昨年の厳しい気象条件の中で、野菜も大変な影響を受け、発芽不良や、米に関しても本当に厳しい高温障害のなか影響が免れない状況であった。そのため、給食に提供している数になかなか伸びがなかったが、そういった気象環境の問題に対して、今回の資料にあった温室効果ガス削減の負荷実証事業の認定を受けることができた。普段私たち子供達に接する機会があるが、そういう時に環境についても関心を持ってもらえるような携わり方ができたらと思う。

ゆうき給食とどけ隊 牛久保副会長

厳しい条件の気候だったが、なんとか納品ができたことを聞いて、やれやれとそんな感じ。また新たに来年度は見える化とか行政の方の応援も頂き、ますます子供達のために頑張りたいと思う。

松川中央小学校 木下栄養士

ゆうき野菜などを届けてもらい、私たちの方で給食にして子どもたちに届けているという大きな役割を担わせていただいているが、視察の受け入れや、マスコミとかにも取り上げてもらい、地域の方と関わりながら子ども達にその地域を知っていただくものが1つは給食であってほしいと実践をしている。私達の給食室の中で“つくり隊”というものを立ち上げて、今美味しく給食を作るために私たちできること、私たちが努力して町の皆さんにどういうことを給食室でやっているのか、情報提供できる活動を始めた。徐々に、皆さんにお示しさせていただいて、実は給食ってこういうことをやっているんだよ。ということを知っていただくきっかけの一つになればと思って活動している。たくさんの方に協力をしてもらい給食が作れているということを、私たちが改めて知る、いいきっかけにもなっているので活動をしながら町の皆さんと一緒に勤めていきたいと思う。

保育園 遠野栄養士

今年度は圃場の見学をしたり、また研修に参加し、勉強させていただいた。その中で私たちは子どもたちのために生産者をお知らせしていきたいと思い、給食お便りに生産者の方の顔写真と一口メモを掲載し、また毎月食育の日には、ゆうきの野菜を使ったメニューでは、一口メモで生産者などをお知らせした。今年度、参観日に試食会を開催することができたので、保護者にも給食でこんな野菜を使っていて、食べて、味を感じてほしいという放送かけて紹介した。これからも皆様にご協力い

ただきながら保育園給食においしい野菜を盛り込んでいきたいと思う。

松川町商工会 小沢会長

今日皆様の話を聞いて本当に感心した。皆さんの作った一次品やそれから加工した商品をあそこで見た、あそこで売っていたなど、そういうとことを聞くことはちらほらある。今松川町の農業を皆さんが頑張っていると思って感心している。私も松川町産の農産品を送ることが多いが、本当に褒められる。私自身も、リンゴを毎日1個から2個必ず食べる。他からもらう機会もあるが、松川のりんごが一番美味しいと思うので、皆さんに頑張ってもらってありがたい。私ゆうきの里の委員なので、学校でゆうきの野菜で作った給食を小学生と一緒に食べさせてもらった。できればみんな美味しいというのか、子どもたちに消費者にとっているようなアンケートを取ってもらえれば、このサンプルの比較って自分では全然わからないのでそういうものがあればいいと思う。

南信州農業農村支援センター 木下係長

先日梨の振興大会を開催し、松川町から大勢の方がご参加していただいた。松川の北沢章さんに、優良事例ということで発表していただいた。うちで進めている早期多収省力栽培という栽培方法で、新植を進めたいということで話をしている。今まで導入したところでは割と成功事例が少ないなかで、ここ2年位で、各地域の植えた園地について、12園地くらい重点的にテコ入れをする。新しく失敗しないように、概ね7園地は3年もすれば、モデル的ないい事例になるだろうと取組んでいる。今年の生育状況は、梅は昨年と同様の時期の開花があった。生育の早いものはすっかり進んできている。梨の状況では、今のところ平年並み。休眠期の必要な低温があり、そこの積算が暖冬で遅れていたということで、遅れていがそれを取り返して今平年並み。これから温かい日が続くと今度は生育が進んでいく状況にある。あと一番は3月の病気が問題になる。陽気がいいと、一気に生育が進む。温暖化の傾向として、3月は暖かいが4月は平年並みにあまり暖かにならない。そうすると、今度は凍霜害の被害を被りやすいのでその備えをしっかりとっていただきたい。

事務局 昨年フレールモアを導入して、延べ51回出動。述べ3町5反ほど緑肥の粉碎、遊休化しているところの整備を行った。延べ44筆、100時間程度。

JA女性部 吉沢部長

皆さんのように活発に活動していないけれど、現在のJAが新しくなって5年経った。なかなか本所まで行く機会がないということで、松川独自で本所の見学を行った。調理室があるので、エプロンサポーターの方に料理を教えてもらい、料理をしてお昼を食べて、その後は見学という良い機会を与えていただいた。組合長にも出席していただき、いつも私たちの思っていることを、聞いていただいた。JAの集落懇談会が地域であった。なかなか女性が行っても意見を出せないということで、女性部独自の懇談会を開いていただき、いつも思ってることなど活発な意見交換ができた。

5. 閉 会
吉沢副会長